

（午後3時45分 再開）

○議長（岡 弘悟君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番18、3番 杉本君。

〔3番（杉本俊彦君）登壇〕

○3番（杉本俊彦君）ただ今、議長のお許しを得ましたので、通告に従い、一般質問いたします。

1番、橋本市立小・中学校トイレの改修について。

平成22年3月議会で、18番議員が橋本市立小・中学校のトイレについて質問されています。「汚い、臭い、暗い、怖い、壊れている、5Kです。慣れない和式トイレで用を足すのに不安を感じている」。こういうふうな問いに教育委員会では、「これらのトイレの問題も含め、教育環境改善のために各学校と懇談会を持ったり」などとコメントしています。トイレの改修工事について、行政の考えを伺います。

2番、小中学生を対象とした会社の企業展について。

市内には多くの会社がありますが、仕事の内容があまり知られていません。小中学生に早くから、「こんな仕事の会社です」とアピールの機会をつくることで、地元で働くきっかけになってほしいと願います。こんな場を行政が提案できないか、行政の考えをお伺いいたします。

3番、コンパクトシティについて。

本市に合った小さな拠点について考えると、まちづくりについて考える拠点となる施設が小学校区に一つあれば、地域包括ケアシステムを含め、そこを中心としたまちづくりがで

きます。行政の考えをお伺いいたします。

4番、市内無人駅の活性化。

南海高野線とJR和歌山線についてですが、各4箇所の無人駅を利用したまちづくりの可能性について尋ねます。地域と一体化した駅づくりを行える行政の考えをお伺いいたします。

5番、コミュニティバス・デマンドタクシーについて。

平成29年12月4日から1年間の試験運行を始めたデマンドタクシーを取り入れた新しい新コミュニティバスについてお尋ねいたします。半年たちましたが、試験運行で計画に沿った結果が出ているのか心配です。評価、成果、課題、今後の対策など行政の考えをお伺いいたします。

以上五点、よろしく願います。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君の質問項目1、橋本市立小・中学校トイレの改修に対する答弁を求めます。

教育部長。

〔教育部長（曾和信介君）登壇〕

○教育部長（曾和信介君）橋本市立小・中学校トイレ改修についてお答えします。

学校施設を巡る大きな問題は耐震化対策と老朽化対策です。

耐震化については、平成24年度末までに全小・中学校で対策が完了しています。

一方、老朽化対策については、学校施設の長寿命化改修及び緊急性のある場合の修繕等は随時対応しているところです。

長寿命化改修については、取り壊しや建て直しを行うのではなく、財政的な制約の中で効率的に更新するためにできるだけ構造体を生かしながらいフォームしています。そのリ

フォームすべきメニューの一つにトイレ改修があります。

学校施設は児童生徒が長い時間を過ごす場所であり、安全安心を第一に、より良い学びの場のための教育環境を整えることは重要なことです。トイレは1日に何度も必ず利用する場所であるとともに、保健面・衛生面からも大事な施設であると考えています。

また、同時に学校施設は地域コミュニティの核であり、本市においても拠点避難所に指定されています。

本市では学校施設を新たに建築する際や大規模改修時にトイレ改修を行い、あわせてトイレの洋式化を図っているところですが、大規模改修については短期間で多くの学校を改修することは困難であり、長期的な計画のもとに実施することになります。

そのため、トイレ改修のできていない小学校、中学校については大規模改修に至るまでの長期にわたり改修できないということになり、老朽化により指摘される5K（臭い、汚い、怖い、暗い、壊れている）の状態が続くものと懸念されているところです。

教育委員会としては、将来の大規模改修と重複工事がないように先行してトイレ整備をする必要があると考え、大規模改修とは別枠で予算を確保し、来年度から順次進めていくよう計画しています。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君、再質問ありますか。

3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）ありがとうございます。前向きに考えてくれているようで感謝いたします。

実は、エアコンのときもこんな感じで進めていってくれるものと思っていたんですが、最終的にどこの小・中学校にもつけてもらえなかったのが、今回のこのトイレに関しては、

油断もしないようにして質問してまいります。

まず、私は全部のトイレを洋式で、ただ単なる洋式じゃなしに、洋式でウォシュレットつきで、脱臭機つきで、立位の男子用の小便器は不要です。手洗いは全自動タイプの蛇口というか、持っていくやつあの形にするのがいいというふうに思っています。学校のトイレが気持ちよく使え、我慢したり、臭いにおいや衛生面が安心できるトイレをつけたいというふうに考えています。

まず、そこで、トイレの現状について、市の把握状況を教えてください。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）お答えをさせていただきます。

橋本市内小・中学校20校ございます。そのうち新設されたあやの台小学校、橋本小学校も含み、トイレの全面改修済み、改修中の学校は6校となっております。他の学校については未改修ということでございます。

未改修の実施校につきましては、学校全体が老朽化していることもあり、トイレの配管、水道配管、トイレ便器、床、内装等、恒常的に修繕が必要な状態にあり、応急のものについては対応しているところでございます。

学校においてももちろん清掃はしておるわけですが、5Kの状態が残念ながら続いている状況にあります。特に、未改修のトイレにつきましては湿式のため、掃除の際、大量の水を使うことから、金属の腐食、床のひび割れ等が発生し、下の階への漏水を将来起こす可能性もあり、実際に過去には、それにより改修した学校もございます。

それから、便器につきましては、全小・中学校で1,614個ございます。大便器977個、そのうち和式便器は626個で、全体の64%、洋式便器は351個で全体の36%となっています。

また、小便器につきましては637個ございま

す。

以上です。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）2016年11月の文部科学省の状況調査によりますと、全国公立の小・中学校施設の便器の割合から見た和式の割合ですが56.7%、洋式が43.3%となっています。全国的に見て、洋式の数が約7ポイント橋本市は低いというか、少ないというふうになっている現状がはっきりわかりました。

次に、文部科学省では全国市町村に学校施設の長寿命化計画を策定するようとの指示がありますが、本市ではその指示の内容期限、また、いつまでにその計画を策定する予定なのか教えてください。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）学校施設の長寿命化計画の作成の主な目的としましては、中長期的な維持管理等にかかるトータルコストの縮減、及び予算の平準化を図り、学校施設に求められる機能、性能を確保することが目的でございます。

平成28年に本市におきましては、橋本市公共施設等総合管理計画を策定しております。それに基づき、施設ごとの具体的な対策を定める計画として個別施設計画をつくる予定となっております。文部科学省からは、平成32年までに作成するようとの指示がありますが、教育委員会としましては、具体的な整備の内容、時期、費用等をあわせてこの個別計画につきましては、本年9月末までに完成すべく、今準備を進めているところでございます。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）平成30年9月末までに完成すべく準備を行っているとのことですが、準備で終わらず必ず実行に移し、626個の和式トイレを洋式トイレに変えていってもらいた

いと思います。

次に、大規模改修とは別枠でのトイレ改修とのことですが、将来トイレ改修を行ったところについては、改めて大規模改修時にも改修を行うのでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）トイレ改修につきましては、あくまでも国の補助が獲得できるということを前提とした計画でありますことを、まずご報告をさせていただきたいと思えます。国庫補助の場合、学校施設の長寿命化改良事業については、老朽対策のための交付金、トイレ改修などの質的整備に対する交付金があります。これまで老朽化対策によりトイレ改修も行ってきたところでありますが、トイレの現状を考える中で質的整備に関する交付金を活用して、老朽化対策を待たず、トイレ改修を先行して行うべきと判断を今しているところでございます。

なお、トイレ改修を行ってから、数年経過してから大規模改修等の実施になろうかと思いますが、そのときには重複をしないように、工事が重複にならないように、この回のトイレ改修につきましては湿式トイレを残すことなく乾式で行うと考えてございます。

以上です。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）数年経過して大規模改修をする学校でも、現状がひどい学校は大規模改修を待たずして工事を行うということがわかりました。

次に、トイレについて、乾式である理由、また、和式トイレを洋式化することについてはどのようにお考えですか。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）湿式トイレにつきましては、先ほどご説明を申し上げましたように、大量の水を使う等のことがありまして、

将来、漏水等のおそれがございます。そういうことになりましたら、場合によっては重複した改修工事をしなければならないということもございます。

また、水洗いでトイレの床を掃除するわけですが、きれいになったようなトイレでも、雑菌がかなり多くございます。それから、タイル目地へのアンモニアのしみ込みが、悪臭の元凶となっているということも報告されてございます。

乾式トイレは清掃時の節水につながることで、それから、湿度が低く乾燥しているために雑菌の繁殖が軽減できること。それから、排水口がないためにおいが軽減できる。水はかけないので、さびや腐食を軽減できる。それから、廊下との段差をなくすということによってバリアフリー化も果たせるということの利点がございまして、乾式としたいと考えてございます。

次に、和式・洋式でございまして、和式便器はその形状から尿便の飛散や臭気の拡散を防ぐことは極めて困難であり、現在、家庭のトイレは洋式が一般となっております。また、公共施設等の整備においても、洋式がスタンダードとなっております。また、それに加えて、大災害時の避難所にて使用されたトイレが和式便器が主体であったことから、多くの高齢者や障がいをお持ちの方が十分にできなかったとの報告もございまして、和式を残していくことにつきましては、将来大規模改修を行う際、改めて洋式化を図らなければならないということも予想がされますので、全て洋式化をしたいと考えています。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）湿式と乾式は掃除が違うというのを理解しましたんですが、タイル目地でなければ減臭するし、脱臭装置付きの便座にするのも効果があると考えています。

全洋式化を考えているとの答弁ですが、ウォシュレットつきで、脱臭つきで、立位の男子用の小便器は不要で、私、手洗いは全自動タイプの蛇口ということをおっしゃるんですけども、これものすごく期待しておるんですよ。全部やってこそいいなというふうに思っておりますので。

次に、学校施設のこの改修等についてですが、地域、学校長、PTA役員、児童会や生徒会など、意見を収集する仕組みは具体的にどのようになっていますか。また、生徒など、アンケートを実施されたのであれば、最新の結果を教えてください。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）お答えをします。学校施設の改修等について判断を行うということでの意見集約をするという仕組みは特にございません。学校施設や通学路等につきましては、さまざまなルートで教育委員会に情報、修繕要望が届けられてございます。なお、アンケートにつきまして、トイレ改修について中学生にアンケートを実施しました。その内容は、トイレに対してどう考えているのか、また、トイレ改修を行うのであれば、和式・洋式のどちらを希望するかという内容でございまして。

対象となった生徒は2校338名です。トイレのにおいについて気になる生徒が143名、スリッパ等を設置してほしいが106名などで、そのほか、何らかの5Kについての具体的な内容の改善を図ってほしいという答えが大半でございました。

また、和式を望む生徒につきましては、338名中17名、5%でございまして、そのうち男子生徒4名、女子生徒13名でございまして。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）ドアの壊れているトイレ個室や女子トイレと男子トイレに仕切りの

壁がないような学校や、音や声が丸聞こえの学校のトイレ、出入り口にカーテンのある学校にドアのない学校などいろいろでした。ちょっと見学に行かせていただいたんですが、いろいろありました。これは大人だけの話にせず、児童会や生徒会の意見に耳を傾けて、速やかに実行改修してください。これはよろしくをお願いします。本当に汚いし、あんなトイレを使いたくないという生徒のほうが多いと感じました。

そこでなんですが、和式を望む生徒が2校17人、一応5%いると。2校ということは、橋本市には20校あるわけですので、約170の方が和式を望む声ということになります。5%の方が望む170人は、裏を返せば95%の人が要らんというトイレなんです。これは極端かもしれませんが、考え方によったらそうなんですけれども、でも、5%の方が要るという数字なんです。各学校のフロアーに和式を一つずつ残すことも考える必要があるんじゃないかなというのは、これはですね、学校というのは教育機関です。もし私が会社の社長であって、会社のとおりトイレにするのであれば、全洋式にするというふうに思うんですが、学校というのはいろんな生徒がいるし、外国人であったり、トイレの形が一定でない国の方ですね、自分たちの認識のないトイレの国の人もいらっしやって、この間ニュースでやっていましたが、男性用の便器の中に大便があったりとかというのものもあるわけなんです。形がわからないから。そこも踏まえて、教育の場で、男性用の小便器はこんなものが日本にはありますと。大便もこんなものもあるし、洋式のこんなものもありますというものをわからせるような施設もあっていいのかなというのは今の感想なんです。だから、学校として、特別な場所なんかなというふうに思っています。

市長に聞かんとこうと思ったんですが、やっぱり市長にもこれ、どのようにお考えかだけ一言お願いします。

○議長（岡 弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）杉本議員の質問にお答えをします。

先ほど教育部長が申しましたように、できたらもう洋式で進めていきたいと。今回、やはり子どもたちの将来のことも考えて、それぞれ、例えば、新幹線に乗って、じゃあ、洋式に座れなかったらトイレせえへんのかという、そういういろんな問題もありますし、私どもにしても、ただ補助金がついてこなかったらできないという非常に大きな問題もありまして、ウォシュレットを入れるとか、そういうようなものに関しては、財政的にそれは許されないということになります。限られた予算の中でトイレ改修に踏み切ったわけなんです、まだ大規模校4校改修が残っていますので、それを入れると30億円ぐらいのお金になるかもわからへんで、そういう予算を回していくことは現実不可能なんで、杉本議員が言うようなトイレはつくることができませんし、できるだけ子どもたちに早く、新しいトイレを使わせてあげたい。多分、和式で乾式というのは恐らく無理だろうと思いますし、そういうふうな問題もありますので、できるだけ私としては早いうちにやっていきたいというふうに思っています。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）いっぱい言われているんですけども、時間がないから、次行きたいんですけど。わかりました。市長、ありがとうございます。とにかく早く進めていってほしくて、計画はどんなにか、とにかく洋式化というか、でも、やっぱり全体を見てですね、設計のほうは進めていっていただきたいと思

います。

続きまして、2番、お願いします。

○議長（岡 弘悟君）次に、質問項目2、小中学生を対象とした会社の企業展に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）小中学生を対象とした会社の企業展についてお答えします。

児童生徒がより早い時期から自分の将来について考え、将来の目標を明確に持つことはとても重要なことであると認識しています。現在、各小・中学校ではそれぞれの地域の特性等を生かして、見の周りの職業や自分の将来の生き方について学習する機会を設けています。

小学校段階では、社会科を中心として市内の事業所の見学を行ったり、仕事に携わっている人から話を聞いたりする活動を通して、自分たちの生活を支えている地域の仕事について学習する機会を設けています。

中学校段階では、学ぶことと働くことの意義の理解、望ましい勤労観、職業観の形成について取り扱うことが中学校学習指導要領でも明記されており、より自分の将来に直結する課題として職業調べや職場体験学習等を実施しています。

職場体験学習では、全市立中学校の2年生が、市内のさまざまな職種で延べ170箇所の事業所にご協力をいただき、地元橋本市を支えている仕事について知るとともに、体験を通して働くとはどういうことか、働くことの意義はどんなことなのかということについて学ぶ機会としています。

議員からの市内企業が仕事をアピールする機会として企業展の開催をとのご提案ですが、学習指導要領の趣旨、現状行っている取り組みがあることや、多数の児童生徒が同時に参

加する機会を設けることが難しいことから、教育委員会としましては、イベントとしての開催は困難であると考えております。

先ほどもご説明いたしましたとおり、現状でもたくさんの地元事業所のご協力をいただきながら、地元を支えている仕事について学習する機会を設けていますが、今後、経済推進部とも連携を図りながら、幅広い業種やあまり知られていない業種の協力先を新たに開拓する等、これらの機会を充実させ、ふるさと橋本市に愛着を持った児童生徒の育成に努めてまいります。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君、再質問ありますか。

3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）ありがとうございます。小学校の段階で事業所の見学や仕事に携わっている人から話を聞いたり、自分たちの地域の仕事について学習する機会を設けている。また、中学校の段階でも、職業調べや職場体験を実施して、職場体験では市内のさまざまな職種で170箇所という事業所に協力をいただいていること、私ははじめて知りましたので申しわけございません。今回、このような質問をしたんですが、よくわかりましたので、これで終わります。

次、お願いします。

○議長（岡 弘悟君）次に、質問項目3、コンパクトシティーに対する答弁を求めます。

総合政策部長。

〔総合政策部長（上田力也君）登壇〕

○総合政策部長（上田力也君）コンパクトシティーについてお答えします。

内閣府が発行しています地域生活を支える小さな拠点づくりの手引きでは、一定の生活圏において安心して暮らしていける上で必要なサービスを受け続けられる環境を維持していくために、地域住民が自治体や事業者、各

種団体と協力、役割分担をしながら、各種生活支援機能を集約・確保したり、地域の資源を活用し、仕事・収入を確保する取り組みを小さな拠点づくりとしています。

市では、住み慣れた地域で子どもから高齢者まで地域全体で支え合いながら、安心、安全な生活を送れるまちをめざし、地域が主体となり、市民と行政が協働してまちづくりを進めるための取り組みを進めており、まちづくりの方向性においては概ね同じであると考えています。

市民と行政の協働で元気なまちをつくっていくために、これからのまちづくりの旗印として取り組みを進めている自治基本条例の策定について、橋本市自治基本条例策定委員会より（仮称）橋本市の自治と協働をはぐくむ条例素案が本年3月に答申されました。現在、その条例素案をもとにした、（仮称）橋本市の自治と協働をはぐくむ条例案に対するパブリックコメントを実施しています。

条例案には、地域づくりを進めるに当たり、市民と行政の協働による地域主体のまちづくりのことや、それを行うために一定のまとまりのある地域で地域運営組織を設立できる内容などを盛り込んでいます。

パブリックコメントを実施している段階ではありますが、議員おただしの小学校区の一つ、地域の拠点となる場所を設け、地域主体のまちづくりを進めていく上では、公共施設に限らず、拠点となる施設は必要であると考えています。

しかし、区域等については条例制定後に市民の皆さんの意見を聞きながら十分に検討していく予定ですので、ご理解をお願いします。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君、再質問ありますか。

3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）まず最初に、タイトル

のコンパクトシティというのですね、ちょっと間違っただけ使っております。タイトルについてはおわびします。皆さんが知っているコンパクトシティというのと、私は小さな拠点という意味で英語に使ってしましまして、全く違う話になってしましまして、ここを訂正をお願いしたんですがもう一旦出したやつは元に戻らないということで大変申しわけなかったんですが、ここで改めて、私の言うコンパクトシティというのは、小さな拠点、橋本市を3,000人から5,000人ぐらいの人口単位に区切った想像の地域の中でまちづくりをするという考え方なんですけど、あくまでもこれは私個人的な造語でして、申しわけないんですが、世間で使っている意味とは全く違うんで、訂正しておわびいたします。

市民の多くは市役所に行くのも、市民病院に行くのも、金融機関に行くのも、ショッピングセンターに行くのも、自家用車の利用が前提となっており、高齢者など移動制約者にとっては日常生活の面で利便性を欠くものとなっています。人口減少が到来し高齢化が加速する中で、本市の財政を保ちつつ地域コミュニティを維持していくためには、過度に自家用車に依存しない都市構造をめざしていくことが必要だと考えています。

だからこそ、小学校区単位で地域づくりすすめていくことが必要だと思います。子どもや高齢者を含めた多くの人にとって、暮らしやすい、にぎわいあふれるまちづくりを実現する必要がある中で、地域特性を生かす小さな拠点をつくることが不可欠であると考え、住民と協働した地域活性化を模索しつつ、財政が厳しくなる中で地域固有の資源を生かしつつ活性化を図っていくためには、住民主体の取り組みが今後ますます重要性を増していく中で、今後この小さな拠点を見据えながら、自治基本条例を参考に監視、評価していき

いと考え、この質問は終わります。

以上です。

○議長（岡 弘悟君）次に、質問項目4、市内無人駅の活性化に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（小原秀紀君）登壇〕

○総務部長（小原秀紀君）市内無人駅の活性化についてお答えします。

現在、JR西日本では、将来予想される乗降客に対し提供する駅施設規模の適正化、維持管理費を削減し経営負担の軽減、健全な鉄道継続運営を目的として、乗降客の少ない駅のシンプル化と多い駅の強靱化を計画しています。

本市に対しては4月末に担当者が来庁され、乗降客の少ない駅、いわゆる無人駅のシンプル化の目的や手段等について説明がありました。具体的な内容は無人駅の老朽化した駅舎やホーム上屋を撤去し、維持費用の小さい設備への置きかえと、維持費の負担の大きい跨線橋を撤去し、裏口設置等代替設備を設けるとされています。

橋本市内のJR各駅を見ますと、高野口駅、紀伊山田駅、下兵庫駅、隅田駅の4駅が無人駅となっておりますが、JRからの当面の対象駅舎として高野口駅と隅田駅のシンプル化を想定しているとのことでした。

このシンプル化については、既に県内の数箇所の無人駅で実施されており、コンクリート製の丸い筒状や四角いボックス形状の駅舎にベンチや時刻表、券売機などが配置されたものとなっています。

ただし、今ご説明したシンプル化は、今後の駅設備の一例であり、店舗等の併設や地域交流施設などとして活用要望のある場合は、関係自治体、地域住民や関係団体等の協力のもと、それらの利用目的への改修も可能であるが、一定の負担や以降の駅設備の維持管

理について自治体や住民等で行う必要があります。

対象となっている高野口駅、隅田駅はともに築年数が100年を超えていることから、耐震化の観点からも立てかえや大規模改修もありますが、両駅とも駅舎等を活用したイベントや駅舎ペインティングも施されており、駅周辺の景観等の調和活用を望む声も多くあります。

いずれにしましても、市としては将来的な負担等の必要性を勘案しながら、地域や関係団体等との意見交換等を行いながらJRと協議を進めていきたいと考えます。

一方、南海高野線の駅舎等については、現在のところJRのような方針は伺っておりませんが、将来、同様のお話があれば、地域や関係団体等と意見交換等を行いながら協議を進めることになると考えています。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君、再質問ありますか。

3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）JRは対象駅舎として高野口駅と隅田駅のシンプル化を想定しているようですが、この二駅は市当局もおわかりのとおり、両駅とも駅舎を活用した駅であります。周辺の景観の調和も地域交流としても活用しています。地域住民や関係団体の協力のもと、それらの利用目的への改修が可能であるなら、それぞれ高野口あるいは隅田駅プロジェクトアクションプランを橋本市民に提案してはどうでしょうか。地域のにぎわいを高める可能性を有した場所、空間としての高野口駅、隅田駅の提案や意見を持ち寄って、まちづくりと一体となった無人駅の将来をともに考え、JRへ提案できればと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）無人駅の利活用の

全国の成功例を見ますと、やはり地域の住民の方でありましたりとか、団体等が事業主体となっていて多いというふうを考えております。そういったことから、今後JRのほうで各駅の地域自治会の方ですとか、関係団体の方を対象に説明会等を実施していただけるようなお話もございますので、そういった説明会を通じて地域の方のご意見もお聞きして、市としてどういふかかわりができるかについて検討していきたいというふうを考えております。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）よろしくお願ひします。今もうJRは、和歌山県でも和歌山市内のほうの向こうで二駅を改修して、四角いブロックとか書いてありますけど、ドラム管みたいな殺風景な駅にどんどん変えていってわけなんです。だから、ぜひとも高野口駅とか隅田駅というのは、本当に間に二駅ありますけども、無人駅、それとは別に高野口と隅田というのはやっぱりまちづくりも橋本市と一緒にやっとなるような駅というふう認識しておりますので、ぜひともJRの進んだ形での話は進めずに、入り込んでいただけてますようによろしくお願ひします。

次、お願ひします。

○議長（岡 弘悟君）次に、質問項目5、コミュニティバス・デマンドタクシーに対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（小原秀紀君）登壇〕

○総務部長（小原秀紀君）コミュニティバス・デマンドタクシーについてお答へします。

デマンドタクシーの試験的運行については、効率的で持続可能な運行を継続するための取り組みの一つとして、コミュニティバス運行ルートのうち道路の狭隘な箇所や利用者が少ないバス停が連続する地域について、利用予

約があった場合のみ運行する交通手段として導入したところです。

デマンドタクシーの利用状況は、12月では4ルート合計21人、1月は46人、2月は34人、3月は26人、4月は30人となっています。ルート別では、東ルートが12月から4月までで25人、中ルートは54人、西ルートは26人、北ルートは50人となっています。

デマンドタクシーの利用実績は、地域の状況や利用目的、乗り継ぎ場所の状況など差異があるため単純な比較はできませんが、利用者の多くが高齢者であるため、定時定路線とは異なり予約が必要な交通手段であることから、このような状況となっていると考えます。

今後は、平成31年度に実施予定の市内公共交通再編に係る地域懇談会や各交通事業者の意見等を参考に、現状の把握・検証を図りながら、限られた財源の範囲内で市民の皆さんの移動手段の確保に努めていきたいと考えています。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君、再質問ありますか。

3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）それでは、同様に、デマンドタクシーはわかりましたので、コミュニティバスの利用者数の変化もお願ひします。かつ、コミュニティバスの目標人数は何人ぐらいかというのもお願ひします。

○議長（岡 弘悟君）総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）コミュニティバスの利用状況ですけれども、コミュニティバスの平成29年度の1年間の利用状況についてですけれども、ルート別で、東ルートが5,737人、中ルートは1万3,407人、西ルートは7,283人、北ルートは6,387人となっています。4ルートの合計で3万2,814人となっております。平成28年度の利用者数3万4,803人と比べますと、1,989人の利用減となっております。

これにつきましては、昨年の12月にコミュニティバスの一部区間をデマンドタクシーに切りかえたことによる影響というふうに考えております。

それと、目標人数につきましては特に定めておりません。当市で目標としておりますのは、目標人数とは別に公共交通のカバー圏ということで、バス停から半径300m、それと駅から600mのそういった公共交通のカバー圏の率を85%というふうに設定しているところでございます。

○議長（岡 弘悟君） 3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）カバー圏85%ということは、現在それより少し少ないということではよろしいのでしょうか。

○議長（岡 弘悟君） 総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）現状でいきますと、81%ということですので、目標には達していないというような状況です。

○議長（岡 弘悟君） 3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）予約型デマンドタクシー利用者が5カ月で157人、月当たりで31.4人です。一月に12.5日、月水金の運行ですか。12.5日運行するとして、1日で2,512人、コミバスは4ルートで6回来るので、コミバス一台当たりへの乗り移り乗車は0.1人、あまりにも利用者が少ないように感じますが、デマンドタクシーの一日当たりの目標は何人ぐらいに置いているのでしょうか。

○議長（岡 弘悟君） 総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）デマンドタクシーの利用が少ないという点につきましては、月水金の隔日の運行という点と、便数もコミュニティバスよりは少ないという点、それと、予約しないと乗れないというこういった点が少ない理由に挙げられるところでございます。

また、目標ですけれども、目標については設定はしておりませんで、先ほどのコミュニ

ティバスと同じように、公共交通のカバー圏85%を目標としております。

○議長（岡 弘悟君） 3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）2月の一般質問の部長答弁に、3月3日のカフェミーティングで、市民の方からの意見や質問や提案を聞くとの答弁をいただいております。どのような内容の話があったのか、お話しください。

○議長（岡 弘悟君） 総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）カフェミーティングの結果ですけれども、こちらについては市のホームページでも公開をさせていただいております。カフェミーティングでは、国土交通省の職員の方から、公共交通の現状と課題、今後のめざすべき将来像についてご講演をいただいた後に、各グループに分けていろいろな意見をお聞かせいただきました。

幾つか紹介させていただきますと、コミバスやデマンド交通を決定する際は地元の意見をしっかり聞いてほしい。停留所の環境改善をしてほしい。停留所を増やしてほしい。もっと奥地まで来てほしい。デマンドタクシーのフルデマンド化。学校や郵便局、JA、スーパーをコミバスで行ける対象に加えてほしい。それと、日曜日の運行、こういった意見が出されております。

以上です。

○議長（岡 弘悟君） 3番 杉本君。

○3番（杉本俊彦君）実はこのコミュニティバス・デマンドタクシーですが、鳴り物入りで去年の12月4日に開始されたと思っております。今、市民、私は実は雨の日とか、最近、コミュニティバスによく乗るようになりました。市長からのお勧めで割引券を購入しました。回数券ですか。11枚で100円得というやつですね。ほんで、コミュニティバスに乗ってみて何が一番わかるかという、乗っている人たちと仲よくなれます。話をするし、運転

手さんとも仲よくなれます。いろんな話を聞く中で、やっぱりデマンドタクシーの説明を聞くとちょっと困るみたいで、説明しにくいというような運転手の方もいらっしゃいました。ご利用されている人たちもほぼ決まったような人たちなんですけど、やっぱり元のコミュニティバスのルートのほうがよかったと違うかなというふうな話を多く聞いております。

最初、私、コミュニティバスは乗る人がおれへのやったらやめていいやんというふうに思ったんですが、いろんな人たちの話を聞くと、また自分が使うようになると、これは要るやんというふうになってきて、なおかつ、お金なんかとらんでええやんと思うようになったんです。これは使ってみたらわかると思うんですが、確かに市のお世話にならないんようになるんですけれども、市を大きな会社、会社じゃないこう見てね、要するに皆さんに思っしてほしいのは、高島屋をイメージしてください。高島屋に食料品やとか化粧品やいろんな店屋がいっぱいありますよ。それに中にエレベーターがあるんですよ。移動手段としてエレベーターやエスカレーターがあるんですよ。あれ別にお金を払いませんよね。だから、まちの中に移動手段として乗り物であっ

て、お金出さなければそのまちが百貨店並みのブランドというような、橋本市ってすごいなというふうには、これからなるんやないかなという気がして。そんなんやったら橋本市に住んでみたいというような方がもし1人でもいらっしゃったら、大きな目で見たら、市長、思い切って皆またただに戻すって、ほんまに言うてもろうたらどうやろかって真剣に思うように、この質問をいたしました。

以上で終わります。

○議長（岡 弘悟君）3番 杉本君の一般質問は終わりました。

総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）先ほど私、答弁を読むときに、デマンドタクシーの利用状況、中ルート54というふうに読んだということで、正解は56人ということで訂正しておわびさせていただきます。

○議長（岡 弘悟君）ご了承願います。

---

○議長（岡 弘悟君）これにて一般質問を終結いたします。

以上で本日の日程は終わりました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

（午後4時35分 散会）